

■ 次期交通計画の概要

1. 現行計画の評価・検証

(1)現行計画の達成状況

計画区域	鯖江市全域
計画期間	令和4年度～令和8年度(5年間)
将来像	豊かさや安心のある暮らしを支える交通環境

- 「公共交通利用促進のための市民団体の活動回数」は、目標値を達成しています。
- 「つつじバスの利用者数」は目標年度の途中であるため「未達」となっていますが、前回計画策定時と比較して改善しています。

指標	前回計画策定時 (R3 年度)	目標値 (R8 年度)	現況値 (R7年度)	達成状況
目標1. 多様な移動ニーズに対応する公共交通の実現				
つつじバス年間利用者	14.4 万人 (H30)	17 万人	16.1 万人	改善したが 未達
福井鉄道福武線市内駅利用者数	47.4 万人 (H30)	50 万人	41 万人	悪化しており 未達
つつじバスの 利用者一人当たり公的資金投入額*	552 円/人 (H30)	540 円/人	666 円/人	悪化しており 未達
目標2. まちづくりと連携し、暮らしやすさを高める公共交通の実現				
公共交通が充実していると 感じている人の割合	58.7% (R 元)	80%	56.6% (R8)	ほぼ横ばいで 未達
公共交通集落カバー率 (鉄道、路線バス、コミュニティバス)	95% (R3)	97%	96%	ほぼ横ばいで 未達
目標3. 観光・ビジネスで訪れた人にもやさしく、鯖江の魅力を高める公共交通の実現				
つつじバスポータルサイト (バスどこサービス)アクセス数	15.7 万回 (H30)	16 万回	9 万回	悪化しており未 達
目標4. 市民との協働により、使いやすさを高め、にぎわいを支える公共交通の実現				
公共交通利用促進のための 市民団体の活動回数	12 回 (H30)	15 回	15回	達成

※利用者一人当たり公的資金投入額:

つつじバスの運行経費における国県補助金と市の負担額をつつじバス年間利用者で除した

(2)目標を達成するために行う事業の実施状況

- 令和3年度に策定した「鯖江市地域公共交通計画」では、目標を達成するために行う事業として、計画期間において下表の 29 事業を全て実施してきました。

目標	実施事業	判定 (●:実施、 ○:未実施)	実施状況
1.多様なニーズに対応する公共交通の実現	(1)幹線交通の運行	●	継続実施
	(2)つつじバスの再編・運行	●	R4 年度に再編
	(3)つつじバス車両の更新	●	R5 年度バス車両6台購入(中型:1台、小型:5台)
	(4)外出支援等のためのタクシーの運行・助成	●	継続実施 鯖江定額周遊タクシー事業の運用
	(5)北陸新幹線へのアクセス手段の検討	●	鯖江駅周辺整備計画の見直しに伴い、費用対効果が見込めないことからアクセス手段の整備を見送る
	(6)多様な輸送資源の活用を検討	●	ライドシェアタクシー、カーシェア、かわだ支えあい交通
2.まちづくりと連携し、暮らしやすさを高める公共交通の実現	(7)主要バス停の待合環境の整備	●	継続実施(バス停の定期清掃)
	(8)主要乗継拠点でのつつじバス発着情報案内の設置	●	R4 年度鯖江駅バス停の発着情報案内モニター更新
	(9)運行事業の安定化に向けた企業広告等の推進	●	R4 分:335,330 円、R5 分:717,000 円、R6 分:1,255,320 円、R7 分:1,536,000 円、R8 分:1,472,000 円
	(10)障がい者、運転免許証自主返納者等へのつつじバス利用者無料証の交付	●	継続実施 R3 年:158 件、R4年:179件、R5 年:173 件、R6年:190件、R7年:202 件
	(11)キャッシュレス決済の導入検討	●	R9 年度に導入予定
	(12)JR 鯖江駅東口改札の設置および周辺整備に向けた取り組み	●	R4.8「鯖江駅東口等整備基本計画」策定 ⇒ 現在再検討中
	(13)つつじバスのフリー乗降制の検討	●	フリー降車区間を一部区間で設定
	(14)パーク＆ライドの利用促進	●	継続実施 水落駅・鯖江駅の整備、つつじまつりでの利用啓発
3.観光・ビジネスで訪れた人にもやさしく、鯖江の魅力を高める公共交通の実現	(15)つつじバスのリアルタイム位置情報表示「バスどこサービス」の継続と利用環境の拡充	●	継続実施 各停留所に QR コードを掲示
	(16)レンタサイクルの利用啓発	●	R8 年度 4 月よりシェアサイクル実証実験を開始
	(17)つつじバスの利用料金割引制度	●	継続実施 乗り継ぎ割引の実施
	(18)つつじバスの利用料金割引制度の拡充	●	継続実施 つつじまつり等のイベントと連携した割引制度の検討
	(19)商店街との連携によるつつじバス乗車券の交付	●	継続実施 対象施設 500 円以上の利用につき運賃10 0円を割引
	(20)観光施設等との連携によるつつじバス乗車券の交付	●	さばえつつじまつり期間中、鯖江駅から西山公園までの無料乗車券を配布
	(21)バス車内への観光パンフレットの設置	●	継続実施 市内観光施設等のパンフレットの設置
	(22)つつじバス車内を利用した観光案内	●	継続実施 市内観光施設の紹介を掲示
	(23)バス停表示看板のデザイン更新	●	R6.4.1 よりバス停看板デザインを更新
	(24)SNS を利用した情報発信	●	R5 年より公式 SNS(X(旧 Twitter)・Instagram)を開始
	(25)公共交通乗務員の接遇向上	●	継続実施 定期的な安全運行の呼びかけ
4.市民との協働により、使いやすさを高め、にぎわいを支える公共交通の実現	(26)公共交通とまちづくりに関する意識啓発と利用促進	●	継続実施 鉄道フェスタ、バス・タクシー洗車・乗車イベントの実施
	(27)つつじバスの利用促進	●	新デザイン車両の導入、イベント会場間の移動手段として利用促進
	(28)自治会によるつつじバス停留所の上屋の設置・管理と行政による支援	●	継続実施(コミュニティバス停留所上屋等設置補助金)
	(29)公共交通機関としてのタクシーに関する情報発信	●	市 HP にてライドシェアの運行情報等を発信

2. 次期交通計画の方向性

(1) 鯖江市の課題

【課題1】 公共交通の 持続可能性の 確保	つつじバスの運行体制を維持・改善しつつ、地域特性に応じた多様なモビリティ(自家用有償旅客運送や福祉輸送等)の活用を検討するとともに、市民への積極的な利用促進を図り、地域全体で公共交通を支える仕組みづくりが必要
【課題2】 高齢化の進展と 高い自家用車 依存	公共交通の必要性は認識されつつも、利用転換が進んでおらず、公共交通が選択される環境整備と意識醸成が必要
【課題3】 広域移動を 支える シームレスな 公共交通の接続	鯖江駅や神明駅等の結節点において、鉄道と二次交通(バス、送迎、自転車等)の乗り継ぎ環境をいかにスムーズにするか(ダイヤ調整、駅前ロータリーの整備等)が重要
【課題4】 観光・ビジネス 需要に対応した 公共交通の 拡充	「めがねのまちさばえビジョン2040」や「デジタル田園都市構想」で掲げられているICTの活用(MaaS、キャッシュレス等)を具現化し、実証実験中のシェアサイクル(LUUP)やタクシー等を組み合わせ、来訪者が直感的にまちを回遊できる仕組みづくりが必要

(2) 次期交通計画の目標

計画区域	鯖江市全域
計画期間	令和9年度から令和13年度までの5年間

① 将来像

地域公共交通の将来像	めがねのまちのにぎわいをつくる「乗って残そう公共交通」
------------	-----------------------------

② 基本目標

基本目標1	わかりやすく便利な「幹線・二次交通ネットワーク」の維持
-------	-----------------------------

- 鉄道駅を交通の起点として位置づけ、駅と地域を結ぶ二次交通との接続性を高めるとともに、待合環境やダイヤ、案内表示等のサービス水準を段階的に向上させていきます。そして公共交通を支える担い手の確保にも目を向けながら、将来にわたって安心して使い続けられる交通ネットワークの実現に取り組みます。

指標	現況値	目標値(R13)	データ取得方法
つつじバス年間利用者数	16.1万人【R7】	20万人	バス事業者からの乗降データにより算出
ハピラインふくい市内駅年間利用者数 (鯖江駅・北鯖江駅)	96万人【R7】	95万人	鉄道事業者からの報告
福井鉄道福武線市内駅年間利用者数 (鳥羽中・神明・水落・西山公園・西鯖江・サンドーム西)	41万人【R7】	38万人	鉄道事業者からの報告

基本目標2	まちづくりと連動した、多様で持続可能な移動手段の確保
-------	----------------------------

- 将来のまちづくりの方向性と連動させながら、年齢や身体状況にかかわらず、誰もが安心して暮らし続けられる、持続可能な移動手段の確保に取り組みます。

指標	現況値	目標値(R13)	データ取得方法
利用者一人当たり公的資金投入額	666円【R7】	865円	決算より毎年算出
公共交通収支率	6.2%【R7】	6.0%	決算より毎年算出

基本目標3	「めがねのまち」の交流・観光・にぎわいを支える交通環境の充実
-------	--------------------------------

- 「めがねのまちさばえ」としての個性と魅力を発信できる交通環境の充実を図ります。

指標	現況値	目標値(R13)	データ取得方法
観光施設利用客数	164.5万人【R7】	165万人	観光施設からの報告により算出
LUUP年間利用者数	3千人(見込み)【R8】	5千人	実績から算出
公共交通が充実していると感じている人の割合	56.6%【R8】	60%	鯖江市政に関する市民アンケートより算出

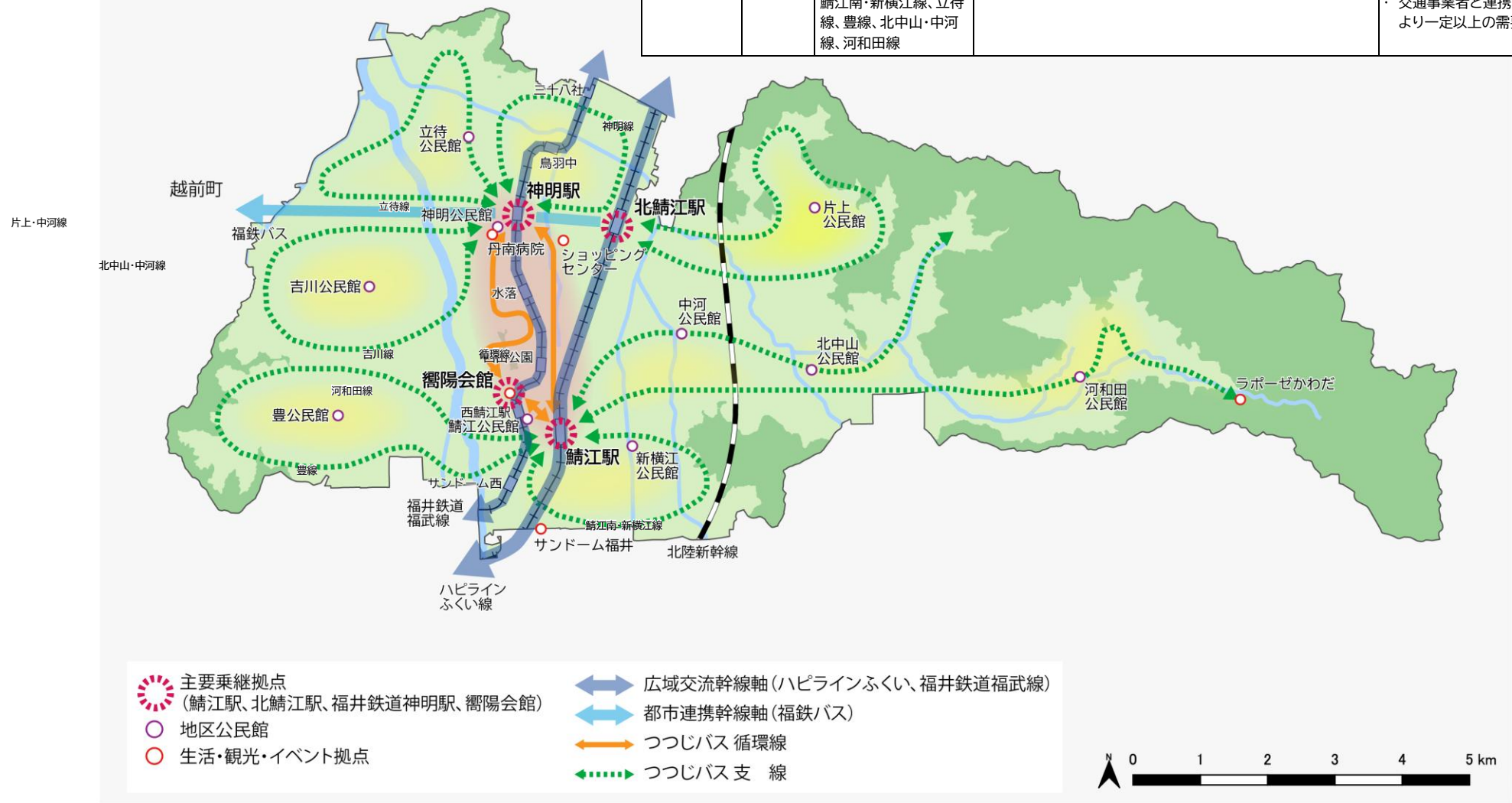
基本目標4	自転車の活用と「市民が主役」となる公共交通の利用促進
-------	----------------------------

- 情報発信や意識啓発の取組を通じて公共交通への理解を深めながら、自治会等と協働した地域主体の取組も推進し、行政や交通事業者だけでなく市民自身が主役となって支え、次世代へとつないでいく公共交通の実現を目指します。

指標	現況値	目標値(R13)	データ取得方法
公共交通への愛着醸成を目的としたイベント実施数	6回【R8】	6回	実績から算出
自転車活用推進計画の策定	—	策定	—

(3) 鯖江市が目指す公共交通ネットワーク

軸		系統	役割	確保・維持策
広域交流幹線軸		ハピラインふくい 福井鉄道福武線	広域的な鉄道網を形成し、県内主要都市や県外との交流・移動を支えるとともに、隣接する福井市・越前市とを連絡する、本市の南北方向の公共交通サービスを支える骨格としての役割を担います。	・ 交通事業者と協議の上、一定以上の運行水準を確保
都市連携幹線軸		福鉄バス	鯖江駅、神明駅等の交通結節点を通じて広域交流幹線軸と接続し、東西に広い市域における日常的な移動を支えながら、隣接市町との都市間連携を支える交通軸としての役割を担います。	
つつじバス	循環線	つつじバス循環線	市街地中央部に集積する生活関連施設を高頻度で循環します。	・ 地域公共交通確保維持事業（フィーダー補助）を活用し運行水準を維持 ・ 交通事業者と連携した取組により一定以上の需要を確保
	支線	神明線、片上・中河線、吉川線、 鯖江南・新横江線、立待線、豊線、北中山・中河線、河和田線	通勤通学や通院、買い物等の移動の利便性を改善するため、ルートの効率化による速達性の向上を図ります。	



(4)基本目標に基づく実施事業

★地域公共交通利便増進実施計画において利便増進事業として位置づけるもの

目標	実施事業	実施主体			
		交通事業者	行政	民間団体など	利用者
1. わかりやすく便利な「幹線・二次交通ネットワーク」の構築	(1)幹線交通（鉄道線等）の継続的な運行と利用促進	●	●		
	(2)つつじバスの再編・運行 ★	●	●		
	(3)主要バス停の待合環境の整備		●		
	(4)主要乗継拠点でのつつじバス発着情報案内の設置		●		
	(5)キャッシュレス決済の導入 ★	●	●		
	(6)鯖江駅周辺整備に向けた取組	●	●		
	(7)つつじバスのリアルタイム位置情報表示「バスどこサービス」の継続と利用環境の拡充		●		
	新(8)運転士の確保支援	●	●		
2. まちづくりと連動した、多様で持続可能な移動手段の確保	(9)外出支援等のためのタクシーの運行・助成	●	●		
	(10)多様な輸送資源の活用検討	●	●		
	(11)運行事業の安定化に向けた企業広告等の推進		●		
	(12)障がい者、運転免許自主返納者等へのつつじバス利用者無料証の交付		●		
	(13)つつじバスのフリー降車制の拡充 ★	●	●		
	(14)公共交通機関としてのタクシーに関する情報発信	●	●		
	新(15)モビリティハブの整備に向けた検討	●	●		
3. 「めがねのまち」の交流・観光・にぎわいを支える交通環境の充実	新(16)つつじバスの運賃制度の見直し ★		●		
	新(17)商店街等との連携によるお買物券付き回数券の販売 ★		●	●	
	(18)観光施設等との連携によるつつじバス乗車券の交付		●		
	(19)バス車内への観光パンフレットの設置	●	●		
	(20)つつじバス車内を利用した観光案内	●	●		
	新(21)公共交通による周遊環境の構築	●	●	●	
	(22)公共交通乗務員の接遇向上	●	●		
	新(23)ふくい MaaS との連携・拡充	●	●	●	
4. 自転車の活用と「市民が主役」となる公共交通の利用促進	(24)パーク＆ライドの利用促進	●	●		
	新(25)自転車利用環境の充実		●		
	新(26)シェアサイクルの利用促進		●	●	
	(27)SNS を利用した情報発信		●		
	(28)公共交通とまちづくりに関する意識啓発と利用促進	●	●	●	●
	新(29)モビリティマネジメントの推進		●		
	(30)つつじバスの利用促進 ★		●		
	(31)自治会によるつつじバス停留所の上屋の設置・管理と行政による支援		●	●	

(5)地域公共交通確保維持事業の必要性

- 鯖江市は隣接する福井市、越前市、越前町へ通じるハピラインふくい線、福井鉄道福武線、福鉄バス鯖浦線を幹線系統として、ハピラインふくい鯖江駅や北鯖江駅、福井鉄道福武線神明駅でこれらに結節するコミュニティバス「つつじバス」を運行しています。特に免許返納後の高齢者や車の運転ができない学生等が生活に必要な不可欠な交通機関として活用しており、通勤・通学、通院、買い物、飲食など日常生活を支えるだけでなく、幹線系統への接続により市内外広域に移動を可能にする、大変重要な路線となっています。
- 一方で、つつじバスは自治体や事業者の努力だけでは維持が難しく、地域公共交通確保維持事業(フィーダー補助)により運行を維持する必要があります。

(6)つつじバスの再編案

系統名	主な起点	経由地	主な終点	事業区分	運行形態	実施主体	補助事業
鯖浦線	北鯖江駅	神明駅	かれい崎 (越前町)	4 条乗合	路線定期	交通事業者	なし
循環線 オレンジ系統	鯖江駅	神明駅	鯖江駅	4 条乗合	路線定期	鯖江市 (運行は交通事業者 に委託)	フィーダー補助
神明線 水色系統	公立丹南病院	北鯖江駅	神明駅				
片上・中河線 青色系統	神明駅	北鯖江駅	公立丹南病院				
吉川線 黄色系統	神明苑	神明駅	神明苑				

